

教育民生常任委員会調査報告書

前 田 正 雄

調査年月日 平成 25 年 7 月 31 日 (水)
調査目的 認知症支援の取り組みについて
調査場所 香川県小豆郡土庄町地域包括支援センター

調査概要

土庄町は、総人口（15,123 人）は年々減少傾向にあるのに対して、65 歳以上の人口は増加し、現在高齢化率は 32.5%と約 3 人に 1 人が高齢者の状況にある。

また、高齢化に伴い認知症も増加している。「認知症になっても、住みよい地域で安心して暮らし続けることができるまちづくり」は、町にとって重要な課題であると位置づけ、地域で支えあうまちづくり推進を高齢化福祉計画及び介護事業計画において目標の一つにあげ、認知症高齢者支援の推進を目指している。「認知症になっても、住みよい地域で安心して暮らし続けることができるまちづくり」を目指すために、住民・専門家・行政職員などが集まり『あつたかとのしょう町づくりの会』を発足し活動に取り組んでいる。

この会の進め方にあたっては、ヘルスプロモーション研究センターの岩永先生の指導により「認知症にならないようにしようと」頑張っても、なってしまうことがある。認知症になるとこんなに大変だ」ということを考えるのではなく「たとえ認知症になっても、こんな暮らしができるまちを作ろう」。「そのためには自分たちのまちに何を整えればいいのか」と考え参加した皆さんが知恵を出し合い、この町で、本人が、あるいは家族がたとえ認知症になっても楽しく暮らすことができるようになる第一歩を踏み出している。

所 感

北栄町も高齢化率が、益々高く推移するに伴い認知症も増加していく中で認知症支援は町の重要な課題と位置づけ、「認知症になっても、住みよい地域で安心して暮らし続けることができるまちづくり」を目指し、認知症になっても困らない町にしたいものである。

そのためには、認知症の方やその家族を地域で支えることがもっとも大事であり、町が目指す理想の姿をまず具体的にイメージし、実現していくためにはまず何を行っていくのか、住民みんなで話し合い知恵を出し合う機会をつくり、行政だけで進めるだけでなく町民と協同して考える必要性を感じた。